

外来種ニセアカシアの分布を把握する



図-1 ニセアカシアの分布(黄色)。四角は図-2の範囲を示す。
(C) Digital Globe, Inc.

街路樹や蜂蜜等でなじみ深いニセアカシアですが、実は元々は北海道に自生しない、北アメリカ原産の外来植物です。河畔や森林で分布域を広げており、在来の生態系を脅かす存在として問題視されています。外来種問題を考える上では、分布域の把握が重要ですが、ニセアカシアの分布域をくまなく現地調査するのは大変です。このため、開葉が遅いニセアカシアの性質を利用した人工衛星データの解析と、現地踏査を組み合わせることにより、2002年現在の美唄市周辺100km²のニセアカシアの分布を把握しました。

ニセアカシアは市街地や農地と山地の境界付近に集中しており(図-1)、分布面積は98.9haと計算されました。現在のニセアカシア分布域が過去にどのように利用されていたかを空中写真から判読した結果、1962年には伐採跡地や農耕地が多く、炭鉱として使われていた土地もありました。これらが徐々に森林化する過程で、ニセアカシアが侵入したと考えられます(図-2)。このことから、耕作放棄地や森林伐採の後に造林されない土地などの管理放棄地を作らないことが、ニセアカシアの分布拡大を防ぐ上でも重要であるといえます。

(育林科・防災林科)

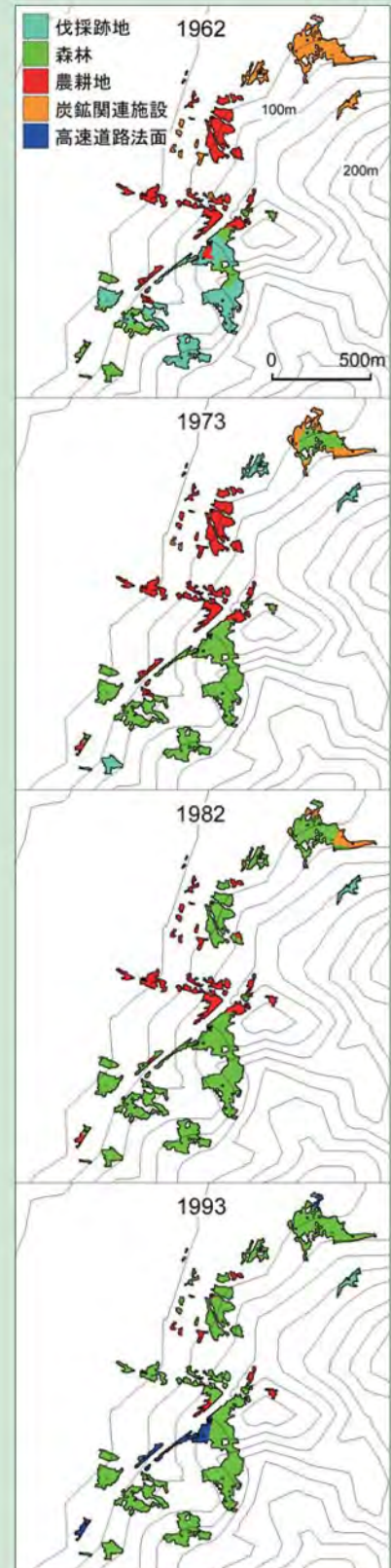


図-2 ニセアカシア分布域での土地利用変化の例(部分拡大)